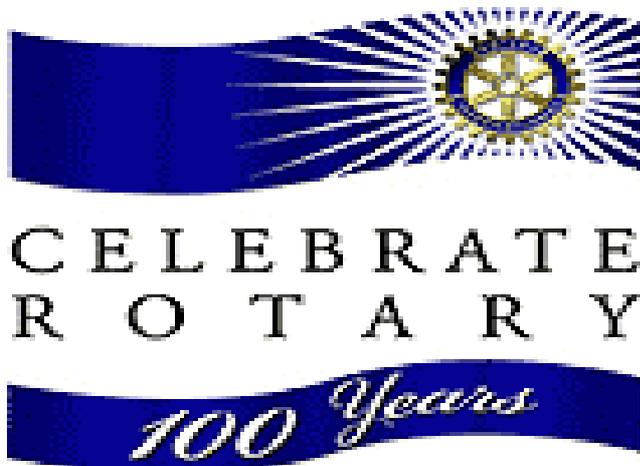


国際ロータリー第 2640 地区

第 4 組

2004 年 ~ 2005 年度

INTERCITY MEETING



ロータリーを祝おう

2004 年 11 月 6 日(土)

会 場 高野山 龍泉院

ホスト 高野山ロータリークラブ

開 会 式

フォーラム	S A A	中本芳也
点 鐘	ホストクラブ会長	吉田紀男
君が代 奉仕の理想	ソングリーダー	林 栄一
歓迎の言葉	ホストクラブ会長	吉田紀男
地区役員紹介	ホストクラブ会長	吉田紀男



INTERCITY MEETING
IN
KOUYASAN

会長挨拶

本日は皆様にはご多忙のところ
ご出席下さいまして誠にありが
とうございます。又、地区からは
中島治一郎ガバナーはじめ財団・
米山委員長様には遠くよりご出
席賜り厚く御礼申し上げます。



吉田紀男会長

国際ロータリー100周年に当り、私共高野山クラブがIMの
ホストをお引き受けさせていただくことは光栄の至りでござい
ます。

さて、今年度のIMは、楠公延ゼネラルリーダー様、又、谷
口善志郎ガバナー補佐様のアドバイスを戴きながら、計画をさ
せて戴きました。皆様にはよろしくお願いを致したいと思いま
す。既に皆様ご承知のように高野山は、7月7日にユネスコの
登録を受け、世界遺産となりました。高野山は熊野、大峰と並
びまして紀伊山地の霊場の一つでありまして、早くも観光客が
増えて参りました。特に高野山は四季を通じて、春は桜、夏は
涼しく、秋は紅葉、冬は雪と言った中に、世界遺産に相応しい
場所となっております。

皆様方に今年の春に植樹して頂きましたロータリー100年の
森も大門より少し下った所にごございますので、是非IM終了後

には訪れていただければと思っております。最後になりましたが、本日の IM が充実した一日となりますことをお祈り致しまして歓迎の挨拶と致します。

本 会 議

本会議は谷口善志郎ガバナー補佐の進行により、「地域の活性化」について大いに語られました。

以下はその概要を掲載します。

IM 進行プラン

2004年11.6(土)

ホスト高野山ロータリークラブ

主旨と目的

クラブの活性化は、会員一人ひとりに、正しくキチンとロータリー情報が伝達されて、情報を共有することにより、結果として大いに図られるものです。

今回のIMは、4組各クラブの改革改善と、各クラブが仲間を増やす為の力をつけることを目的にして、各クラブの理事役員が一同に集い研鑽したいと考えます。

本日のテーマは、「マンネリ化と情報伝達の実情」

- 1、新会員への入会前と入会後のインフォメーションは、丁寧に確実に行われているか？
- 2、ガバナーの意思がクラブと会員にどのように伝わっているか？

結論や答えを求めるのではなく、とことん情報交換と意見交換をしていただきます。

従って皆さんには、以下のような方針で進めていただきます。

全員フラット参加型

膝を突き合わせてフリートーク

過去の在り方や形式に囚われない

会員の活性化

クラブの活性化

地域の活性化

最後に、各クラブの実情を聴いていたガバナーから、改めて自身の意思を話していただいて、参加した各会員が、今年度になって理解していたことを。自身の内で照合して頂きます。

10:40 本会議

進行 ガバナー補佐 谷口 善志郎



待ちに待った会議であります、本日はフリートーキングになっておりますので、それぞれ自由に発言していただきたいと思います。

本日のテーマは「マンネリ化と情報伝達の実情」です。

1．新会員への入会前と入会後のインフォメーションは、丁寧に確実に行われているか？

2．ガバナーの意志がクラブと会員にどのように伝わっているか？

ガバナーは様々な場でお話をなさいます。ガバナー自身のお考えであったり、RIの方向であったり致しますが、その事を地区内会員一人一人がその年度のガバナーの意向を好く受け止めて、日々活動をするというのが理想であります。ところがロータリ100年の歴史の中にあって、また、各クラブも歴史を重ねて行く事で、前年の繰り返しであるというマンネリ化によって、情報が正しく伝達されていないのではないかと。

以上について、結論や答えを求めるのではなく、とことん情報交換と意見交換していただきます。

吉田会長(高野山); いかにガバナーの思いを伝えていくかという点につきましては、月信や、会長の挨拶で励行しております。今年度の財団の寄付金について、目標が定められてないので、集めにくい点もあって他のクラブはどうしているのか・・・

今年度は昨年と同様ということになっております。

谷口 ガバナーが折々におっしゃるのは「心からなる」寄付で
ございます。ヒントとして一日100円貯金の投げかけがあった
と思いますが、特に今年は目標も示されませんでした。そのこ
とによって各クラブの捕らえ方が様々であったようですが。

井尻会長（打田） 寄付活動について、特に米山について若干
の疑問を感じております。1日100円貯金については、賛同
し復活させました。外からロータリーを見るという事も大事で
はないかと思えます。

谷口 復活とはどういうことでしょうか？

井尻 以前例会時に貯金箱を回していたのがなくなっていまし
たので、この度、復活させました。

谷口；米山の為に復活したということでしょうか？

井尻；いいえ。特定のものでは無くて、ファンドの一部です。

中谷会長（岩出）； 例会時に、「お金を出すだけではなく、も
っと考えなさい」という点をお聞きできた事が、ガバナーから
直接お話を伺えたのが一番よかったと思っています。

過去のように、ロータリーがすべて、というよい意味でのマ
ンネリがなくなり、例会だけで活動が完結しているのが問題だ
と思います。そういう意味で、マンネリ化は決して悪いこと
ではないと思えます。

ただし、例会時に元気な顔を見せてくれる、という事も奉仕だと思います、その笑顔を職場なり家庭に持ち帰る事が大事なのではと思います。

谷口;RI もしくはガバナーから色々とお話を聞くことによって、ロータリーは一つの方向を向いて行くべきであると言うことになると思われるのですが、ロータリーもそのクラブ、メンバー毎に色々な意見があると思います。

前田会長(橋本); 財団につきまして一言述べさせていただきます。伊都高校から派遣してまして、メキシコからも迎え入れています。「理解する」というのが一番大事だと思います。メキシコからの派遣学生も言葉の違いを越え、熊野古道へのハイキングなどに積極的に参加してくれ、ロータリアンとの相互理解が進み、寄付金もスムーズに集まっています。

次に会員増強については、嘗ては80名程居ましたが、今は48名まで減っては居りますが、その後、高野山ロータリー、橋本紀ノ川ロータリーが誕生しておりますので、これが無ければゆうに100名は越えているとも言えます。

橋本の人口は増えつつあるのですが、新興の方が多いので、これから徐々に広報を浸透させ、会員拡大を図って行きたいと思っております。

谷口 ; 100円貯金、元気にきて、元気にかえっていってもら
うという、実践派のお話ありがとうございました。

曾和会長（橋本紀ノ川）;

クラブの外から見ればマンネリでも、担当委員にとっては
日々新たではないかと思っています。同じ行事でもその都度そ
の都度担当者が変わり、考えているわけですから私はマンネリ
化とは考えたくありません。

伝達に付きましては、どうして消化して、理解をさせて行く
かという事に話の論点を持って行かないとただ、伝えるだけで
はなく、伝えた人がどのように受け取っているかと言う事を確
実に掴むのが伝達の本来ではないでしょうか。

それともう一点お願いですが、今回中国の西安からの奨学生
申請をお願いするつもりですが、今は中国のガイドのライセン
スを持っておりますし、和歌山大学教育学部に在籍しておりま
す。どうか米山奨学の選考委員会委員長の松下委員長様、よろ
しくをお願いします。

谷口 ; もし宜しければ紀ノ川クラブ独自の留学生受け入れにつ
いてご紹介していただけないでしょうか？

曾和 ; 5年ほど前に西安から来ている王君を受け入れるに当り、
豊沢会員がカウンセラーになり、西安の実情を聞く中で、中国

には優秀な子供が居るにも関わらず、収入が少ない為に学校へも行けない子供達が沢山居ます。と言うお話を聞き、何とかしたいと思い、私達が西安に行き、王君に案内して頂き、今は男女お一人ずつですが、女の子は医者になりたいと言うし、男の子は物理の権威になりつつあります。これらは全て米山財団でお世話になった王君と巡り会えたことが今日につながっているのではないのでしょうか。そういう意味で米山の制度には感謝をしております。

谷口；米山の延長線で橋本紀ノ川ロータリーさんが独自で奨学生を育てていらっしゃるというのは素晴らしいことだと思います。

谷口；ありがとうございました。最後になりましたが、粉河ロータリークラブの福岡会長宜しく申し上げます。

福岡会長（粉川）； 私共のクラブも数年前に財団奨学生を申請したのですが、だめでして、クラブとして浄財を寄付してるのに、受けて戴きたい、との話がありました、受けて戴けないのなら、粉川の地元で有効に使えないのかという話もありました。しかし、財団に対する実績も大事だと考えておりますので、例年通り寄付は続けております。 マンネリ化というならば良い意味で慣習を破るということは出来辛い訳です。

情報伝達については、月信や週報から情報を得ることが出来ますが、米山や財団については人頭分担金と特別寄付の2本立てになっているのが、新しい会員さんには理解し辛いのではないかと考えています。委員長の顔があるからだとか、言われるままに仕方なしにやっているという方も中にあるのではないですか。粉河としては、誤解の無い情報伝達をしたいと考えております。

谷口 ; ありがとうございました。具体的な情報伝達の伝わり難さと言いますか、身近な所で特別寄附と個人の人頭割りの二つがあって、各会員さんに十分に理會されているかどうかと言う問題点も起こっているのではないのでしょうか。古くからのメンバーには「当たり前」「解っている」「当然」と思っている点で、自分の中で飲み込んでしまっているのではないのでしょうか。それが適当かどうかは判りませんがマンネリ化の元かもしれませんね。

如何ですか。他に御座いませんか？

高梨(高野山) ; 財団と米山の方向について、話題になっていますが、自分で考えてロータリアンになれ、と教えられました。最近になりまして、職種分類もほぼなくなり、出席率もメイキヤップも2週間の猶予ができ、いわば、ルールが希薄になって

きました、そして、自由にすればするほど、会員が減っているような気がします。

合併も一つの選択肢ではないかとも思います

谷口; これまでに皆様からのご意見は情報の発信と受け止め方、それと各人の消化の仕方が問題だという点について、確認していくことが大切であるということでしたが、恐らく中島ガバナ―も公式訪問の中で情報収集されていると思います。

女性の目からという点で、如何でしょうか？

榎原(打田); 寄付について、すべきだとは思いますが、使い道を解かっていない方も多いのではないのでしょうか？

使い道がわかっているならば、もっと、積極性ができるのではないかと思います。恐らく会員で、これだけ出しなさいと言われれば「はい」と今までは出ていたと思うんです。今このような経済状態になりまして初めて皆さんがロータリアンとは何かという原点に戻ったときに、寄附はしているけれども一体何処に使われているのかを尋ねた時、私もそうですが、恐らく皆さんはお答えすることが出来ないのではないのでしょうか？

留学生、ポリオに使われていると言っても、それがどういった内訳で使われているかをロータリアンとして知るべきだと思

います。寄付の要請がきたからする、だけではいけない。
知らしめるべきですし、知る努力をするべきだと思います。今
まではそれで良かったのかも知れませんが、留学生を受け入れ
るにしても、出すにしても、総てお金の問題になってくると思
いますのでね。その事がハッキリとすれば、喜んで皆さんお出
しになると思います。

谷口；本質をついたお話ありがとうございます。

小島ガバナーが「寄付の使い道を必ず確認してください」とお
っしゃってましたが、全くその通りだと思います。

どのように、使われたのか、を知り、広報する事が活性化につ
ながるのだと思います。自ら知る努力も大事です。

豊沢（橋本紀ノ川）；情報伝達について、それぞれの委員長の解
釈でかなり違ってくるという体験をしました。伝言ゲームでは
ありませんが、各クラブへの伝わり方が甚だしい場合、全く異
なってくるわけです。それをどのように修正するか？

この会議にしても、各クラブには内容の一部しか、伝わらない
可能性があります。

報告後、再度意見の確認行う事が大事だと思います。

間接的に聞いた会員さんがどのように理解するか、かなり違っ

てくると思います。

そのあたりが非常に難しく、委員長になった方はその点を勉強すべきではないかとも思います。

谷口：最終的な確認が大事である、という事ですね。

逆説的にはそこまでしなければならぬのか？とも言えます。

会議の席で出た情報をどのように伝えるか、訓練が、必要かもしれません。

11：40 暫時休憩

11：44 再開

谷口；先ほどから寄附のお話も随分と出ておりましたが、心からなる寄附をどのようにすればよいものかと思いながら、中島ガバナーのアイデアを実行してやろうと貯金箱を二つ買ひまして、ラベルで米山・財団と書いて小銭貯金をしております。目に付き易い所に置いてあっても、つい忘れてしまいますね。それでまとめて入れてしまうことがあります、これが果たして心からなる寄附になるかわかりませんが、来年の6月の最終例会に缶を開けてみたいと思います。

先ほどから、それぞれ思い思いに話して頂きましたが、もう

少し突っ込んだ、人に嫌がられるかな、と思われるところをお話して頂ければどうでしょうか？

酒向（橋本）； 素直に思うことは、R Iへの上納金と言うか、義務付の寄付金、と各クラブで行っている奉仕にまわす必要経費のバランスが充たせるクラブは良いですが、なかなか難しい部分であり、担当の委員長は「平均これだけ出せと言われとるんで」吾がの顔の利くところへ必死で集める寄付金と言うのが果たして「心からなる」と言えるかどうかです。

各クラブの本質は、本日のテーマでもある、「地域の活性化」であるのに、強制的にR Iへの寄付が優先された場合、残ったお金で地域の奉仕を遣り繰りしなければならない。ニコニコでも集めてやらなければならない。と言う事で、地元での活動を阻害している部分もあると思います。RIを最優先して残り地域奉仕に回す、と言う考えで行くか。強制的に出せと言われている分だけ出して、地元のために使えるような事もあってもいいんじゃないか。

谷口； 外にありませんか？

坂田（打田）； 今年度のクラブの方針として、今まで米山の寄付については、3万円と決まっていたのですが、今年度は3万円の使い道をそのまま米山に寄附しても良いし、半分をクラブにキープしておいて、地域の活性化を図るという事にしています。

谷口 ; ありがとうございます。クラブ独自の指定寄附制度のようなものですね。

妙中 (橋本紀ノ川) ; 先ほどからのご意見を聞いて、私の思うところを申し上げますと、米山奨学金の使い方の使い方については、自分達で日本に遣って来て、奨学金を得るという形、つまり、日本に来れると言う事はそれなりに恵まれているとも言える方が対象です。ところが本当に日本に来たい、勉強したいという方も居るわけで、日本に来れない人も対象に入れる制度を是非とも採り入れて頂くとロータリーに対する感謝の気持ちが遣って来て効果はもっとあると思います。

又、寄附の話が出ておりましたが、進んで出来る筋の通った寄附であれば、もっと集まり易いし、その方が意義があると思います。今は在りませんが、以前スリランカに学校を建てるといふことで、その後の経過報告も無いし、寄附した後の報告が欲しいし、又、特別に集めたものについては報告の義務もあるのではないのでしょうか。

谷口 ; ありがとうございます。 報告義務ということでご指摘がございましたが、「心からなる寄附」を目指すべきだし、そのためにいろいろな工夫がいるということですね。又、一方から言いますと、自ら情報を検索する努力も必要ではなからうかと思ひます。

前田（橋本）； 過日、ガバナー事務所から世界大会の余剰金が出来たという報告の中に、300万円を台風、地震と災害に遭われた地区に義援金として使ったと言う報告がありましたが、地区から剰余金が出来たのも初めてですが、このように使用できたのも、大きな改革だと思います。

谷口； ありがとうございます。その事については、後ほどガバナーの方からお話ししていただきたいと思うのですが。

坂田（打田）； 打田クラブとして、RIの剰余金1500万のうち、300万を新潟中越地震に送らせていただいた話を聞く前に、何とかしようという話が持ち上がり、マスコミの報道は新潟に集中していましたが、その前に台風で水害に会われた関西地域でのボランティアが不足している豊岡に義援金を送らせていただきました。

自主的に集めたら、20万ほどのお金がすぐに集まりました。

谷口； ありがとうございます。

楠見（粉河）； 本日のテーマ、新入会員へのインフォメーションについて、私の考えなり、意見を述べさせていただきます。

ロータリーに入ったら、複雑で難しいので、5年から10年座るっとりよ、その内分かるわよ、という、考えがあります。

この間新入会員の方に米山寄附を集めに行ったら、会費を払ってまた寄付を払うの？と質問され、会員増強委員に米山や財

団の話をされていないのか、と聞けば、「そんなこと言うたらおとろしがってようは入会してくれるかよ」「黙ってほり込んで、その内に馴らして行くんよ」「それもそうよなあ」と、私も思ったりもしたのですが、「こう言う事になってますんや」「ああ言う事になってますんや」と言うように、インフォメーションして良いものやら、しないほうが良いものやら。寄付ばかりだと入会してもらえない。果たして誰がインフォメーションするのか？そのときの担当委員長の考え方がそのまま伝わりますから、入った年にきちんと説明を受けるメンバーと全く説明を受けないメンバーに分かれてしまいます。

ニコニコ一つとっても、するべきかうんぬんの問題がある、善意の寄付であっても運営費に回っている以上、行わないということは、他のメンバーに迷惑を掛けていることになるという事も説明して初めてわかることです、

出席率にしても、説明しなければわからない、点が多々あります。メイキャップにしても、やり方そのものの説明から始まり、これだけはして下さい、ということをきっちり行うべきだと思います。情報委員長なり、担当の委員長を決め、継続的にインフォメーションを行う事で継続的普遍的な会員開発が出来るのではないのでしょうか？

ロータリーは自主的に或いは善意にと言えば聞こえは良いが、

近頃はR I もルールを弛めていることが、結果的によいものとなっているかは疑問です。義務付けも必要ではないでしょうか。服装についても、作業服で参加というような時期もありましたが、出席率は下がる一方でした。そこで、100%を目指し、キッチリとやることにしたら、効果がでました。

あくまで自分の意志での参加なのですが、明確なルールを定める事は必要だと思います。

近藤（高野山）； 入会1年で、右も左もわからない状態です
これからはロータリー活動に邁進して行きたいと思っております。

森（高野山）； ロータリーだけでなく、共同体の存在意義が変革を遂げる時期が来ているのではないかと考えています。

その事を認識しながら活動していく事が大切で、手段と目的を時代の変化に合わせて変革していくことが非常に大事ではないかとも考えています。

谷口；ありがとうございました。皆さんとお話をしている間に時間が参りました。

中島治一郎ガバナー 総 評



参考になる意見に感謝申し上げます。

皆さん方の発言、ご意見を伺いまして、一点だけ、地区とは何かという点について述べさせてい頂きたいと思います。

地区は皆さんと違う人格ではなく、皆さんが即地区そのものだという認識を持っていただきたいと思います。それが何かをしようというのではなく、ガバナーは幹事長のようなもので、回り持ちで役を引き受けるのであって、地区が何かをするとか、地区へ何かをするという考えにはならないのであって、私たちのまとめ役として地区が在るのであります。それを活用するし、不味い存在であれば、改良して行くのが自分たちの役割であるというようにとって戴きたい、と思うのであります。

寄付につきまして、ロータリー財団について申し上げますと、すでに公式訪問でもお願い申しあげましたが、今年度に関しましては「心のこもったお金を一日 100 円貯金」をお願いして参りました。

もう一つはロータリー財団が持っているプログラム、国際奉仕活動を行うために非常に良い道具立てだと思って頂きたいし、どんな良いものがあるのかということのを再認識して頂きたいということで、RI会長もそれを望んでいます。この二つが柱であります。

100 円貯金を提案した背景は、一つの具体的な目安として1日100円とし、会員だけでなく家族みんなで心のこもったお金を貯めていきたい訳です。決して地区に上納するという事ではなく、少しでも地球上で起こっている嫌なことが減るように、ロータリー財団のプログラムを活用して、奉仕の機会の斡旋役としてやっている訳です。是非そのように解釈をして頂きたい。寄付のルールは強要してはならない、それだけです。

「こんないいプログラムがありますよ」「活用すればわかりますよ」と、説明させていただくのが私の役割だし、地区の役員の方々もそれが役割だと思い、一生懸命して下さっている訳であります。やらされてる、と考えるとそれはロータリーではないと思います。ロータリーは目的を持った同士が集まっているわけですから、具体的な提案がないと仕事がしにくいから、提案されてるだけで、選択の自由は常に皆さんに有るのです。

公式訪問をして共通して感じるものが二つ有ります。

一つは、地区全体に量的、質的意味で底打ち感が出て来てきて

います。会員数が随分と減ったけれども、「もうこれ以上減ることはない。これからは良くなる」と言われる会長さんが非常に多く居られます。これからは、発展するのではという感触を感じます。

もう一つは、ロータリーに納得して入っている方が少ないと感じているのが実感であります。

ロータリーの綱領に従い、年にどれくらいのお金と時間があるか、納得した上での会員ばかりなら、もっと強力なクラブ活動が展開されると思います。もう一度、ロータリーについて、説明と納得が行われます事が非常に大事です。

私は25歳のとき、紹介者にトコトン説明を聞き、納得して入会しましたから、後悔せずやって来ました。

綱領を含めた説明をよくする事で、それで会員が減るのならそれは仕方がないとも思いますし、それを聞いて会員が減るのは致し方がない。そのクラブのコンセンサスを保ち、各会員さんが活性化し、ステータスを上げて行くことになるのではないのでしょうか。

目的をはっきりさせることで、各クラブのかたちをつくり上げた時達成感を得るのであります。

活性化は元気の出ることだと思います。元気を通じて、クラブの活性化を、又、地域の活性化を呼びかけておるのであります。

す。マンネリの一番いけないことは、感動が薄れることです。

奉仕しよう、という気持ちの原動力は感動です。

もっとやったろやないか、という気持ちが起こってくるのであります。

以上であります。

総評 ゼネラルリーダー 楠 公延

ロータリー第264



長時間に渡っての
会議、お疲れで御
座いました。あり
がとうございました。
皆さんに感謝申し
上げます。

今年のIMのテーマは地域の活性化、途中退場者のないIMを
とすることで、それならば、と本当に少人数で、充実したもの
にしたいと少数精鋭の会議を企画しました。

地域の活性化にはクラブが活性化する必要があり、
そのためには、会員の活性化が不可欠です。この度は谷口ガバ
ナー補佐様の巧妙な司会でやらせて戴いた次第です。私は
発言しない会員さんが無いように、とお願いを致しました。お
陰で、沢山の皆さんの意見を拝聴でき、活性化されたIMが実
現したと思います。

10月は米山月間、11月は財団月間ですから、ガバナー月信
を今一度熟読されることをお願いします。

会員の活性化の為には例会の活性化以外にないと私は思って

います。

12月に当っております卓話にて、ロータリーの綱領の話をさせて戴こうと思っています。岩出口ロータリークラブさんのお話の中に、元気な顔を見せるだけでも例会出席の意義があるということでしたが、大変貴重なご意見で御座いますし、紀ノ川クラブさんからは、相手の反応を聞く、という貴重なご意見を戴きました。

私は、高野山クラブにはロータリアン必携を配布させていただきました。お読みいただいたと思いますが、12月には特と確認をさせて頂きたいと思います。

最後に皆様方お一人お一人の自覚がクラブの活性化、地域の活性化となるのではないのでしょうか。

閉 会 式

フォーラムSAA		中本芳也
次期ホストクラブ紹介	ホストクラブ会長	吉田紀男
次期ホストクラブ会長挨拶	打田ロータリークラブ会長	
		井尻和男
閉会の言葉	IM実行委員長	高梨晃瑞
手に手つないで	ソングリーダー	林 栄一
終 鐘	ホストクラブ会長	吉田紀男

打田ロータリークラブです

ご当地は世界遺産に登録されたばかりの高野山ロータリークラブのみなさん、大変ユニークで斬新な企画で、価値あるIMを開催いただきありがとうございました。

本日得ましたこの会議を参考にクラブ運営に大いに参考とさせていただきます、来年は精一杯の企画をし、皆さんをお迎えしたいと思しますのでよろしく申し上げます。

次年度は是非打田ロータリークラブにお運び戴きます様お願いを致しておきます。

閉会の言葉 IM実行委員長 高梨 晃瑞

皆さん、遠路、高野山上までご来山頂きありがとうございました。中島ガバナー、楠木ゼネラルリーダー、はじめ、谷口ガバナー補佐様には本当にお世話になり、お蔭様で高野山クラブのホスト、IM4組インターシティーミーティングが無事に終わられました事厚く御礼申し上げます。本日は本当にありがとうございました。お礼申し上げます。

手に手つないでソングリーダー 林 栄一



終鐘 ホストクラブ会長 吉田紀男

12:40 ~懇談会 親睦委員長 西本 公宥

写真収録集



